

および interassay の精度も良好であった。血漿 neurotensin の正常値は 9.4 ± 5.0 pg/ml で性差はなかった。

17. 新しい AFP 測定法の基礎的, 臨床的検討

伊東 久雄 真鍋 俊治 村瀬 研也
 和田 麻理 阿田まり子 稲月 伸一
 飯尾 篤 浜本 研 (愛媛大・放)

ビーズ固相法を用いた新しい AFP キット III (ダイナボット, アイソトープ社製) は, 二抗体法による B/F 分離に遠心分離の必要がなく, 操作が比較的簡単で, 精度, 再現性, および他キットとの相関も良好であった。短時間法にても安定した値が得られ, 迅速な測定が可能である。本キットでの正常値は成人で 10 ng/ml 以下であった。

以上, AFP キット III の主に基礎的検討につき報告した。

18. 転移形成とプロスタグランジン E の変動

大塚 信昭 伊藤 安彦 米田 正也
 長井 一枝 村中 明 柳元 真一
 (川崎医大・核)

骨転移発生機序におけるプロスタグランジン E (PgE) の役割を明らかにする目的で, 家兎 VX-2 癌の骨腫瘍形成過程を骨, 骨髄シンチグラフィーで follow-up し, PgE の消長との関係を報告してきた。今回は次の項目について検討した。(1) 経皮的に肝内に VX-2 を移植することにより肝転移を作成し, その発育を肝スキャンで follow-up した肝転移群と PgE の変動, (2) 家兎耳静脈に VX-2 を注入し, 肺転移形成家兎の PgE 値の経日的変動, (3) 家兎心室内に VX-2 を注入し, 骨転移 (-) で広範な転移をきたした群と PgE 値の変動。

骨転移群では骨スキャン陽性時に PgE の上昇を認めたが, 肝スキャン上 SOL を認めた肝転移群と経静脈的に作成した肺転移群では骨転移形成群に比し上昇は軽度であった。一方, 血行性転移群では骨スキャン陰性 (一部骨髄スキャン陽性) であるにもかかわらず高値を示した。しかし, 移植後同時期と比較すると, PgE 値は骨転移群の方が常に高値であった。

19. 新しい CEA 測定法の基礎的, 臨床的検討

飯尾 篤 山泉 雅光 村瀬 研也
 萬家 千春 阿田まり子 伊東 久雄
 石根 正博 河村 正 浜本 研

(愛媛大・放)

以前の Pharmacia 社製キットの標準血清中には CEA を分解する酵素を含むため, 高値の傾向がみられた。今回, 酵素を含まないキットの検討をした。測定範囲は $2 \sim 50$ ng/ml で, 高濃度人アルブミンと軽度の交叉反応がみられた。インキュベーション温度は, 4, 25, 37°C のうち, インキュベーション時間は, 1, 3, 5, 19, 48 時間のうち, おのおの後 2 者で良好な標準曲線が得られた。稀釈試験では低濃度で直線性が得られた。回収率は平均 112% であり, intra-assay の変動係数は 4~13%, inter-assay の変動係数は 12~17% であった。同一血清を Roche のキットでも測定した相関係数は 0.94 で, 本キットが低い値を示した。35 例の正常値は 1.75 ± 0.62 ng/ml で, 3.0 ng/ml 以上の陽性率は, 悪性腫瘍疾患患者 70 例で 47% であった。

20. 遊離型サイロキシンのラジオイムノアッセイとその臨床的意義

大島 一洋 重本 洋二 斎藤 史郎
 (徳島大・検)

〔目的〕 固定化抗サイロキシシン (T₄) 抗体を用いた遊離サイロキシシン (FT₄) のラジオイムノアッセイ (RIA) を検討し, 血清 FT₄ 濃度測定 of 臨床的意義を追求した。

〔方法〕 正常者および各種疾患患者 461 名を対象とし, 血清 FT₄ 濃度をコーニング社製 IMMO phase RIA にて測定した。

〔成績〕 抗 T₄ 抗体は T₃ と 1.5% に交差性を示すだけで特異性が高く, 測定内の変動係数は 2.2~2.3%, 測定間のそれは 5.6~6.2% と良好であったが, フェニトイン 100 μg/ml の存在で血清 FT₄ 値は高値を示した。正常者の血清 FT₄ 値は 2.03 ± 0.27 ng/dl で, 甲状腺機能亢進症では 6.22 ± 3.66 ng/dl と高値, 低下症では 1.02 ± 0.42 ng/dl と低値を示したが, 妊婦, 抗てんかん薬服用者, 肝疾患, 腎疾患患者では正常範囲内に分布した。TRH 投与時の血清 FT₄ 値は正常者では増加反応を示すのに対し, 甲状腺機能異常者では不変であった。

〔結論〕 固相法 FT₄ RIA は特異性にすぐれ, 血清 FT₄ 値の測定は甲状腺疾患の診断ならびに各種病態時の